



■下記の3つの津波を想定津波とし、それぞれの津波ごとに、構造物の「効果あり」・「効果なし」の2パターンのシミュレーションを行いました。(全6ケース)  
 ■この図には、全6ケースのうち、最大の浸水範囲、浸水深(注1)を表示しています。  
 ■また、代表地点周辺における最大遡上高(注1)および津波到達時間(±20cm、+50cm、第一波)を表示しています。(注2)  
 ■地震の震源が想定より陸地に近かったり、想定を超える津波が来襲するなど、条件が異なる場合には、ここで示した時間より早く津波が来襲したり、遡上高が高くなったり、浸水範囲以外でも浸水する可能性があります。

- 【シミュレーション条件】
- (1) 想定津波
    - ①沖縄本島南東沖の想定地震津波(D01W)
    - ②久米島 南東沖の想定地震津波(G02W)
    - ③沖縄本島南西沖の想定地震津波(H9RF)
  - (2) 構造物
    - 効果あり：防波堤、海岸堤防、防潮堤、河川堤防などの施設が、全て有効に機能したケース。
    - 効果なし：防波堤、海岸堤防、防潮堤、河川堤防など施設の機能が失われたと想定したケース。
  - (3) 潮位：朔望平均満潮位(各月の最高満潮面を平均した潮位)

※注1 最大遡上高と浸水深(図1参照)  
 最大遡上高は、各地区で津波が到達する最高の標高です。  
 浸水深は、各地の地表面からの水面の高さです。  
 ※注2 影響開始時間(±20cm、+50cm)と津波到達時間(図2参照)  
 影響開始時間は、地震発生から、海岸・海域の人命に影響が出る恐れのある津波による水位変化(初期水位から水位変化が±20cm)が生じるまでの時間です。また、図中には、避難への影響がでる恐れのある初期水位からの水位上昇が+50cmに達する時間も表示しています。  
 津波到達時間は、地震発生から、津波第一波のピークが海岸に到達するまでの時間です。

